

第4回赤城山覚満淵自然観察会



主 催：赤城山の自然保護活動推進協議会

協 力：NPO法人 あかぎくらぶ/ サンデンフォレスト、NPO法人 赤城げんき会議、NPO法人 赤城自然塾、
NPO法人 群馬県自然保護連盟、NPO法人 ぐんま緑のインタープリター協会、NPO法人 フォレストぐ
んま21、赤城姫を愛する集まり、ぐんま森林インストラクター会、(財)サンデン環境みらい財団、
赤城山観光連盟、赤城南麓森林組合、国立赤城青少年交流の家、前橋市赤城少年自然の家

後 援：群馬県、前橋市

場 所：赤城山覚満淵等

日 時：平成28年7月18日（月祝：海の日） 8：30～11：45

参加者：102名 別紙参加者リスト参照（参加申込者73名+当日参加者29名）

実 施 報 告 書

実施スケジュール

スタッフの駐車はビジターセンターの駐車場以外に出来るだけ駐車する。

8：30 役員ビジターセンター集合、班別指導打ち合わせ、ハンディーマイク3、救急セット1

8：30 受付準備（受付用参加者名簿、当日参加者名簿）、配布資料（班別名簿、時系列別スケジュー
ール表、参加者向け植物リスト）

班別集合場所決定（1班～8班）

8：45 受付開始 2名配置



9：20 班別に集合整列

9：30 オープニングセレモニー開始 司会挨拶

主催者挨拶：小暮 市郎（赤城山の自然保護活動推進協議会長）

後援者挨拶：松下 克（群馬県自然環境課長）、関 孝雄（前橋市環境部長）

指導者紹介：1班（坂庭、加藤、阿久澤）2班（春山、棚橋、関口）3班（小暮、酒井）

4班（片山、梶原）5班（田中、泉川、阿佐美）6班（亀井、桜井）

7班（篠原、六本木）8班（吉田、市川）

自然観察実施上の注意等：坂庭 浩之（群馬県林業試験場）



小暮会長 挨拶



松下 克 群馬県自然環境課長 挨拶



関 孝雄 前橋市環境部長 挨拶

9 : 5 0 指導者の指示により移動

9 : 5 5 指導者の指示により自然観察開始



自然観察実施上の注意等：坂庭
自然観察実施



7 班



3 班



1 班



2 班





4 班



5 班



6 班



8 班

11:30 自然観察終了

11:35 クロージングセレモニー

集合写真撮影

主催者御礼挨拶：小暮 市郎（赤城山の自然保護活動推進協議会長）

11:45 終了、解散

*希望者対象：「小沼・長七郎山の自然観察」

12:30 小沼駐車場集合、指導者有志と一緒に自然観察、



自然観察開始時撮影



長七郎山一行帰還時撮影



14:45終了、解散。

マスコミ対応
群馬テレビ



7月18日 20:00 ニュースアイ にて放映

上毛新聞

グラフ群馬掲載予定で記者2名が取材。

7月27日校正原稿が届きました、8月11日の山の日特集として掲載される予定。



指導者のコメント

4班 片山満秋

当日は天気良く、担当した班の参加者数も適当であって、時間的にも余裕をもって行動できた。4班の観察コースは「予定」を次のように変更したが、時間的に非常に余裕があり、効率的で、参加者も満足できたと思う。「ビジターセンター→鳥居峠→ウラジロモミ→試験区1→ヌマガヤ草原→試験区3・4→昭和天皇御製歌碑→ミズナラ林→防鹿柵→ビジターセンター」

あらかじめ指定されたコースは、試験区3・4で引き返すことになっているが、引き返さずに、変更したような、一方通行の方が、他の班とも交わらずに行動できて、効率的である。また、試験区3・4～御製歌碑の場所は開花している植物の種類や数も多く、参加者は非常に楽しんでいただけたようだ。

あらかじめ持参・準備したコナラとシラカンバの葉や枝を参加者に渡し、実際に目の前にあるミズナラやダケカンバの説明をした。やはり、現物を見て比較しながら観察をし、説明を聞く方が参加者も理解しやすく効果的であると思われる。

配布されたカラー写真は好評だった。ここにある12種全てを、実物と照らし合わせながら、かつ植物の全体が観察できて観察者は喜び、満足していたようであった。

木道が設置されるきっかけとなった、58国体（昭和58年国民体育大会群馬大会）の昭和天皇の覚満淵行幸のことや、その際に詠まれた御製の句碑を、この観察会で見られるコース設定も検討したらどうか。

2班 春山明子

今年も年齢層が若い赤城団を中心とする17名のガイドとなりましたが、サポートの棚橋さんと関口さんにも所々でガイドをしていただき、若者向けのネタから、花や植生の遷移の話まで、幅広い話をしました。ガイドをしていると話しに集中してしまい、足元の植物に気が付かなかったりするのですが、棚橋さんが先回りして植物を見つけておいてくださり、配布した資料以上に様々な植物を発見し説明することができました。また、狭い場所では、列が長くなってしまうために、関口さんが後ろから参加者の様子を見ながら来てくださるので、安心してお任せすることができました。これらのことから、班の中に複数のガイドがいる事の意味を、ありがたく感じました。

一方で、「ハリーポッターに出てくるニワトコのは、実在する植物なのだ」と、ニワトコの本を前にして話しをしたのですが、意外にもハリーポッターを見たことがある方が少なく、事前のリサーチ不足を感じました。しかし、植生の遷移など、難しいかと思った説明をしっかり聞いてくださったので、若い参加者の柔軟性を感じました。毎年参加してくださる方もいるので、新しいネタを来年までに勉強して、さらに楽しい観察会を続けていきたいと思えます。

1班 坂庭 浩之

「天気にも恵まれ観察日和になりました。

今年もAKGの皆さんと一緒に観察ができ私も楽しむことができました。

昨年覚えてもらった「車エビ（クルマユリ）」に新しい名前を幾つか追加しました。

「田村さん（ナツノタムラソウ）」「蛇の名前（マムシグサ）」など、将来、花に興味を持った際のきっかけになればと思いつきながら話をしました。

今年の覚満淵は花も豊かで、半月ほど季節も進んでおり、既にワレモコウも顔を出し始めました。

毎週毎週、違った顔が見られる覚満淵になったことは、関係者の不断の努力の結果だと改めて感じました。長年の活動が大きな花を咲かせつつあることを肌で感じる事が

できる観察会となりました。

改めて、皆さんに感謝いたします。」

5班 田中洋助 補助：泉川・和田・阿佐美

参加者6名 うち子供2名

良い天気にも恵まれ、楽しい観察会を行うことが出来ました。

人数は少なく、ガイドは多数という気楽な条件で、群馬テレビや上毛新聞の取材注文に応じながら、他班との競合をうまく避けて、ほぼ予定のコースをめぐり終えて、目標の解説とリストに載った花はすべて観察することができました。

子供たちは、ズミやマユミ、ナナカマドなど木の実に興味があり、赤く色づいたミヤマザクラの可愛いサクランボは特に気に入ったようでした。

タマガワホトトギス、ウスユキソウ、コアジサイ、キツリフネなど多くの花が咲いていて、ゆっくりと観察できて喜ばれました。

まだ時間があると勘違いして、木の葉の解説などが長引いてしまい、集合時間に遅れ、皆様にご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

午後は、小沼自然観察に参加しました。

一般参加者は少なく、指導者研修会の様相でしたが、小沼は、かつては底まで見えるほど澄んでいたことや、魚が放流されたり、ボートが浮かべられて濁ってしまい、貴重なミジンコなどが絶滅したり、周辺の森も、人為的な地形改造や樹木の繁茂など自然環境の変化で、群生していたフジアザミも今は全く見られなくなってしまったことなど、なかなか聞けない昔話を聞かせてもらい大変参考になりました。

沼畔の歩道沿いの鹿食害木の多くが枯損して、林内が明るくなってしまったのは残念なことです。

龍の伝説がふさわしい神秘性の感じられる環境を守ることが、今様のレジャー利用を優先するよりも将来性のある対応であるという先輩諸先生方の意見に共感を覚えました。

ミヤコザサか、ニッコウザサか現物を観察して、新しく刊行されたササ専門図鑑の解説文と照らし合わせる作業も行いました。

判別同定の難しさを最確認したに止まりましたが、興味深く勉強になりました。

6班 亀井健一

28年度覚満淵自然観察会の感想文

当日は何よりも天気にも恵まれたことがよかった。梅雨が明けないうちなので、気にしていたのである。第6班の参加者は、子ども2名を含む15名であった。子どもの歩みが遅れはしないかと気になり、皆さんが子どもの面倒を見てほしいと話したが、心配無用であった。子どもは我々を先導するぐらい元気がよかった。また、今日のメンバーの中には覚満淵に詳しい人が幾人かいるので、遠慮なく説明に加わってほしいと話しておいた。和気あいあいの観察会になったと思う。細かい注意は言わないように心がけたので、ややまとまりを欠いたが、できるだけ集まってから解説するように心がけた。

各班のタイムスケジュールができていたが、終了時間を守れば、臨機応変でよいことになった。各観察場所の指定時間にとらわれると、やりにくくなりギクシャクしてしまう。創意工夫ができる余地があったのでよかったと思う。

観察の所要時間は約90分であり、足りないようにも思ったが、詳しく解説すればキリがない。午

前中で一切を終わりにするには、ちょうどよい時間だろう。大人向けの解説ばかりで、子ども向けの説明はできなかった。進捗状況を気にしていたからである。この点が心残りで何とかならないかと思った。参加者に子どもが含まれる場合、子どもを楽しませる係（担当）を特別に設けておけばよいと思った。この点が、今後の課題だろう。

8班 吉田 龍司

集合前（8時半）に赤城山に到着。同行者は開催が9時半なので一時間前の集合は早すぎるとボヤクことしきり。案じていた天気は薄曇り。雨天の心配がないのでホッとすする。事務局はリハーサル効果で準備は万端。来賓の方々も早めに参集して下さったことを有難く思う。

定刻、オープンセレモニー。メガホンの調子悪く聞き取り難い。主催者挨拶、来賓挨拶に次ぎ各班指導者、補助者紹介の後、注意事項が伝達され、9時50分班毎に予定のコースに向けて出発。

8班は約11名。観察会として丁度いい人数。舗装路を鳥居峠に向けて歩く。道沿いの樹木の解説。カエデの仲間の見分け方、枝や樹肌の特徴を学習する。万葉集時代の樹の表記と発音、和歌の紹介。

下草はトネアザミ、ヤマオダマキ、ヤマホタルブクロ等が開花。花のつくりや語源の話をする。シモツケは下野と表記し栃木県で発見命名された事。クルマユリの花の香りの感想を聞く。ユリ科ユリ属とバイモ属との特徴（香の違い）を話す。キツリフネ（赤城は2種）の花の構造、種子散布の様子から学名がついた話をする。次々に目に止まる草名を、聞かれるままに披露する。

途中、小沼方面への旧道を見る。この道を知っているのは大洞の塩原さん（大沼山荘）だけであった。この狭い道をバスが運行していた事に吃驚している。（この奥にゴミ捨て場の在ったことも…）。

鳥居峠は赤城山への主街道だった。ケーブルカー運行以前から賑わった道で、徒歩で赤城山に訪れた人達は覚満淵を俯瞰し、その素晴らしい景観から極楽浄土を想起し涙を流した場所と紹介。

ケーブルカーは東武鉄道が昭和32年に運行し、年間224,000人の乗降があったが、10年後の昭和42年に廃業した。皆、ケーブルの存在は知っていたが、乗車経験は私と塩原さんのみだった。

鳥居峠の覚満淵方面の景観は、ダケカンバが茂り見通しは悪くなるばかり。県自然保護連盟は県自然環境課へ間伐するよう働きかけ、2015年10月に80本ほど伐採が実現した。その結果、五輪尾根（外輪山）方面の景観が復活し、ビューポイントにカメラマンや観光客から喝采を浴びている。と披露する。

赤城山7峰（黒檜山、駒ヶ岳、鈴ヶ岳、地蔵岳、荒山、鍋割山、長七郎山）について話す。山頂には山岳信仰により菩薩や如来が祀られている。鳥居峠背後の小地蔵岳は「虚空蔵菩薩」が旧黒保根村の守り本尊として奉納されていた。（現在は地元の寺に文化財として保管）虚空蔵菩薩の使いはウナギであり、信仰上、村民はウナギを食べることは許されない。地元では現在は如何であろうか？

シカ除けネットの扉を皆でくぐる。ネットは覚満淵周囲1.2kmあり、大型哺乳類の侵入を阻止している。ウラジロモミはネットで巻かれ保護されている。この樹はシカによる不名誉な食害第1号で、赤城山植生保護のシンボルとなっている。

「覚満淵」に足を踏み入れるとヌマガヤに覆われた緑の草原で目を見張る中間湿原。あかぎ国体の時、木道資材搬入のわだち跡が30年以上経っても回復しない悲しい現実を見て考えてもらう。途中モウセンゴケが白い小さな花を咲かせている。食虫植物は他にムシトリスミレが見られたが盗掘されてしまった。「試験区1」でゼンテイカを見る。学名ヘメロカリスは一日花の意。実際は1日半咲く。他にクガイソウ、ノハナショウブの開花を見る。湿原のシダ植物、オニゼンマイ、ヤマドリゼンマイ、ワラビが並列で生えている珍しい植生を観察する。シダ植物は当然ながら花は咲かない。種子植物ではないので花粉は出来ない。胞子の交配で種を広げるシダ植物独特の戦略であると話す、あまり関心がないようだ。

「ミズナラ林」での解説。当時の写真を見ると、70年前は牛馬の放牧地で草原であった。植物遷移で現

在のような森に変貌した。草原は山火事や、人が積極的に手を入れないと森に変貌する。この場所はその一例とも云える。極相林と云うとブナであるが、赤城山にはブナは限られた地にしか生育していない。従って一部の学者は赤城の極相林は「ミズナラ」と言い切る学説もあるようだが定説ではない。

コナラとミズナラの葉の現物を見ながら、葉の葉柄の長短で判断して貰う。オークはカシと訳されているが、実際はナラの樹も含まれ、寧ろ木目の美しさはカシよりナラの樹の方が優れている。家具材や酒樽等は加工がし易いのでほとんどナラ材である。

時間が押したため集合地に急いで戻り、集合写真を撮って午前中の自然観察会は無事終了した。

12時半、希望者のみ「小沼周辺自然観察会」を行うので、昨年と同様指導参加する。長七郎山組と、小沼一周組に分かれ、小沼一周組に参加。おとぎの森に至る道路は、温泉掘削のための工事中であり、参加者は殆んどこの事実を知らなかった。温泉工事は有毒ガス発生で周辺の木々が枯死したため急遽中止となった。当局は「都会の酸性雨の影響」と口を拭いたため、世間に知られることなく終焉した。

道々、ツツジの仲間や早春季植物の話を行う。栗石を敷きつめた遊歩道は湖底の石を使ったもので頗る歩き難い。しかしニホンジカにはハイウエーさながらの道と見え、貴重なツツジの大木は被害されて無残な姿を晒している。惨憺たる有様に皆、息を飲んで見ているようだった。

10日の下見には、ゴムボートを湖面に浮かべ、模型エンジンボート3隻でレースを行っていた。そのけたたましいエンジン音は周囲の静寂を破り、小沼の神秘さを損ねていた。関係者なのか小沼湖畔ではバーベキューも行っていて、その傍若無人振りには啞然とするばかりであった。

幸い今日は不心得な観光客はいなくホッとす。湖畔を一周し終わり自主解散で帰路につく。草臥れた一日だった。

7班 篠原 豊

山の上も、モクモクと厚い雲が湧き上がっていたが雲間から強い日差しが有り暑かった。

ビジターセンターの入り口下でヤマオダマキ（黄花）とヤマホタルブクロの花を見て、スライド式に交換されたばかりのゲートをくぐりミズナラの林に入る。

ダイコンソウの根性葉を観たり、樹皮や濡れたベンチに止まっているヒカゲチョウの群れなどを見て覚満淵の散策道を右回りに進む。

クルマユリ、オオヤマオダマキ、カラマツソウ、カワラマツバ、ノハナショウブなどの花やニッコウアキグミの小さな実などを観て、柵の中にワラビやヤマドリゼンマイ、ススキなどがはびこっているのに驚きの声をあげていると群馬テレビの人たちが笑顔で迎えてくれました。

鳥居峠の斜面に生えているダケカンバなどの話をしてから鹿にかじられたウラジロモミの下にでた。ミヤマカラマツ、サラシナショウマ、ゼンマイなどを観て笹原を下り休憩した。

オトギリソウ、クガイソウ、ノハナショウブ、ゼンテイカ（禅庭花ニッコウキスゲ）を観ていると8班が来て、吉田さんがヘメロカリスの話をしてくれたのを聞いてビジターセンターへ戻る途中、トンボソウやモウセンゴケを観て観察会を終了した。

3班 小暮市郎 酒井良征

班に割り当てられた人数が前年より少なかったこともあってか、予定していたコースを滞りなく回ることができました。

今年は植物の開花が2週間ほど早かったので心配しましたが、皆さんが楽しみにしていたゼンテイカ

(別名ニッコウキスゲ) も見ることができ、花のつくりをじっくり観察できたのは幸いでした。

加してくださった方々の観察力を高めることができたか、自然観察の楽しみを伝えられたか明らかではありませんが、次回も参加する人がどれほど増加するかで判断したいと思います。

事務局 小林 善紀

第4回の自然観察会実施に当たり、多くの方々にご協力頂き、102名(+1)の参加者を得て、絶好の日和の中実施出来たことに対し、心より喜びを共有したいと思います。

7月12日に事前下見を実施し、出席者から何人の参加申し込みがあるか質問が出ましたがその時点では書面による申し込みは15名程度でした。

しかし事務局として100名の参加者を予定していると公言しましたが、結果的にその通りになり、ホットしております。

これも回を重ねてき、関心をお持ちの方々に浸透してきた結果と思います。

今年度の事業計画では11月5日(土)自動刈り機によるササ刈り、11月6日(日)人力によるササ刈りと搬出等予定しております、また、3月には活動報告会も予定しております。

更なるご協力をお願い申し上げます。